

第66回立川市民文化祭
文化とやさしさのあるまちづくり
～より広く より高く～



第66回立川市民文化祭
文化とやさしさのあるまちづくり
～より広く より高く～

立川おはやし大会

35回



たましんRISURUホール(立川市市民会館)
小ホール 立川市錦町3-3-20

2023年11月3日(金)文化の日

12:30 開場 13:00 開会

入場無料

主管 立川おはやし保存会

主催 立川市文化協会

共催 立川市

立川市教育委員会

(公財)立川市地域文化振興財団

13:15	立川錦囃子連
13:30	立川羽三囃子連
13:45	曙東はやし連
14:00	高松町お囃子保存会
14:15	錦東会はやし連
14:30	柴一はやし保存会
14:45	～休憩～
15:00	錦みよし会はやし連
15:15	五月はやし連
15:30	諏訪はやし連
15:45	殿ヶ谷十二支はやし連
16:00	中里神明囃子連



WEBSITE

facebook

YouTube

立川おはやし保存会

立川おはやし保存会は立川市文化協会に加盟する団体で、立川市内で活動する囃子連で構成され、囃子連相互の親睦を深めること、また郷土芸能の保存・普及・技術の向上・後継者の育成を図ることを目的として昭和63年3月に発足しました。以来、立川おはやし大会の開催、立川よいと祭りへの参加、行政・各種団体・企業からの依頼による各種イベントへの出演を実施しております。

出演団体紹介(出演順)

立川錦囃子連	2
立川羽三囃子連	4
曙東はやし連	6
高松町お囃子保存会	8
錦東会はやし連	10
柴一はやし保存会	12
錦みよし会はやし連	14
五月はやし連	16
諏訪はやし連	18
殿ヶ谷十二支はやし連	20
中里神明囃子連	22



立川錦囃子連

発足 昭和30年

流派 船橋流

曲名 破矢 仁羽 昇殿 鎌倉 国堅 師調目

伝来 調布市 国領囃子連

本拠地 錦町六丁目



立川錦囃子連 プロフィール

昭和30年、地元の青年団が調布市国領より囃子を習得しました。国領囃子連は千歳船橋の内海軍次郎を師と仰ぐ船橋流です。

平成10年に当時の会長役員の方々のがんばりと多くの人からの寄付により新しい山車が完成しました。

世代交代が早く、若者が中心に運営することが特徴で、30代、20代、10代の人達が主なメンバーとなってます。

おかげさまで平成27年に設立60周年を迎えることができました。

これからも宜しくお願ひいたします。



立川羽三囃子連

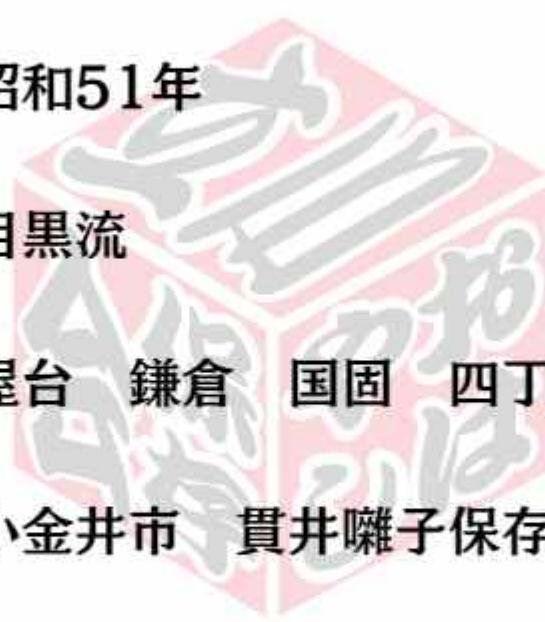
発足 昭和51年

流派 目黒流

曲名 屋台 鎌倉 国固 四丁目 仁羽

伝来 小金井市 貫井囃子保存会

本拠地 羽衣町三丁目



立川羽三囃子連 プロフィール

立川羽三囃子連は、立川市羽衣町三丁目自治会に所属する羽衣町唯一の囃子連で、昭和51年に目黒流の祭りばやしを習い、発足いたしました。

現在、会員は40名で、連帯感と礼儀作法をモットーに毎週2回、夜7時から9時まで、羽衣三丁目自治会館での練習を休みなく続け、技術の向上に努めています。

年間10~15回の出演をこなし、中でも夏祭りは会員一丸となって最高に盛り上がっています。

演奏する曲目は
屋台(やたい)、鎌倉(かまくら)、国固(くにがため)、四丁目(しちょうめ)、仁羽(にんば)です。

太鼓の響きと踊りが調和し 見る人を楽しませてくれます。



曙東はやし連

発 足 平成14年

流 派 神田流

曲 名 屋台ばやし 仁羽 ねんねこ

伝 来 立川市 あづまはやし連

本 抱 地 曙三東町会

曙東はやし連 プロフィール

「曙東はやし連」は、子供たちがおはやしをやりたいと当時の子供会会長に依頼に来たことがきっかけとなり、2002年(平成14年)に地域の協力を得て発足しました。

発足当時、初代会長の知り合いにおはやしを指導してくださる方がいらっしゃるということでその方に師事し「神田流」のおはやしを習い始めました。

その後 「立川おはやし保存会」に参加し、指導を受けながら現在に至っています。

「曙東はやし連」は子供たち中心のおはやしで、練習においても指導者の指示の下で自主的に運営しています。また、行事がありますと子供たちの保護者の方々の絶大な協力の下で活動しています。

主な行事としては、トラックに山車を載せておはやし巡行する「立川よいと祭り」・「曙三東町会祭礼」・「曙町祭礼パレード」や地域との交流を目的とした「曙町文化祭」・「曙町子供会連合会祭り」への参加、社会福祉の一環として「老人介護施設慰問」等を行っています。また、11月には「立川おはやし大会」に参加し、日ごろの成果を発表しています。



高松町お囃子保存会

発 足 昭和29年頃

流 派 重松流

曲 名 仁羽 ねんねこ 屋台囃子 宮昇殿 師調目

伝 来 福生市 奈賀町囃子連

本 抱 地 高松町二丁目東部

高松町お囃子保存会 プロフィール

高松町で囃子が始まったのは昭和29年頃、当時二丁目は(旧)東町会で他所へ囃子の演奏を頼んでいた。その祭礼の鉢洗いの席で30代の人達が囃子をやろうという気運が盛り上がり囃子を行うことが決まった。祭りに囃子を自分達で行うということだけでなく、その年の11月に高松大通りが拡張しその記念式に披露した。その後、東友会の残った大人達で囃子を始めた。

昭和39年頃、米軍の荷物用運搬車を利用し山車を作る。その頃東友会には青年部がありその青年部が昭和45年(日黒流)より仁羽を習い東友囃子連が誕生した。

昭和58年頃、東友囃子連が再び解散したが、その中の人が子供に囃子を教えるようになり、7人の子供達を集めて始め、第一期生から現第七期生と始まり、現在は、高松町お囃子保存会と名称を改め、次の世代へお囃子を指導しています。



錦 東 会 は や し 連

発 足 昭和23年

流 派 重松流

曲 名 屋台 昇殿 鎌倉 国固め 師調目
仁羽 子守唄 数え歌 かんかんのう
蝶々蜻蛉 三番叟 四方殿

伝 来 羽村市 加美町囃子保存会

本 抛 地 錦町一丁目錦東会

錦東会はやし連 プロフィール

東京都立川市錦町一丁目東の自治会である錦東会に所属する囃子連です。

錦東会はやし連の流派は重松流です。重松流祭囃子は天保元年(1830年)に所沢で生を受けた古谷重松翁がそれまであった祭囃子を改良して編み出した新囃子であると言われています。重松翁が明治24年(1891年)に61歳で亡くなるまでに所沢やその近郊はもとより、家業の行商で訪れた西多摩地域に数多く広まった囃子であり、現在では重松流を名乗る囃子連の数は100を超えていきます。

昭和23年(1948年)に羽村市羽加美に御鎮座します武藏阿蘇神社の氏子囃子連である加美町囃子保存会様から祭囃子を習い受け発足しました。

人員は立川市やその近郊に住む老若男女で構成され、土曜日(第4土曜を除く)の18時から21時まで年間を通して自治会館において稽古に励んでいます。

日頃の稽古の成果を発表する場は、8月の立川諏訪神社例大祭はもちろんのこと、1月の新春獅子舞、2月の錦町芸能文化祭、4月の羽村春祭り、10月の立川よいと祭り、11月の立川おはやし大会など季節ごとの催しにも積極的に参加しています。



柴一はやし保存会

発 足 文久2年

流 派 目黒流

曲 名 破矢 ねんねこ 仁羽 国堅
四調目 鎌倉

伝 来 不明

本 抱 地 柴崎町一丁目南西部

柴一はやし保存会 プロフィール

現在の立川市柴崎町一丁目の「しばざき会」に古くから伝承されている柴一はやし保存会(通称、番場囃子)の起源はおよそ160年前の文久2年(西暦1862年)頃より始まったと伝えられております。時代は江戸時代末期で、その当時のこの地域は、まだ「立川」とは言わず「柴崎村」と呼ばれていたそうです。従って、地名も柴崎村字番場となっており番場ばやしの名前の由来もこの地名から来ております。以来、現在まで永遠と継承され、立川では最古の歴史を持つ伝統的な祭り囃子で、流儀は一貫して目黒流を踏襲しております。

このお囃子も戦後の昭和30年頃にはお囃子をやる人が徐々に減少し、後継者不足が深刻な問題となりました。これを機会に長い歴史と伝統を持つ「囃子」と「山車」を町会の貴重な文化遺産として長く保存していく事を目的として、町会に保存部を設置して、町会内の子供を募集し後継者の育成に努めてきました。現在、部員数も50名近くまで増え、子供たちだけで演奏できるまでになりました。以来、毎年「諏訪神社例大祭」を始め「立川よいと祭り」「柴崎会館まつり」「立川おはやし大会」「正月の獅子舞」など、あらゆる行事に参加して諸活動を展開しております。



錦みよし会はやし連

発 足 昭和60年

流 派 目黒流

曲 名 仁羽 破矢 鎌倉 しちょうめ

伝 来 八王子市 追分町囃子連

本 抱 地 立川市錦町三丁目四丁目

錦みよし会はやし連 プロフィール

錦みよし会(錦町3丁目と4丁目の自治会)では、戦後間もない頃から祭礼において八王子市 追分囃子連に頼み演奏してもらっていました。

昭和58(1983)年に新たに山車を購入することとなり、町会の皆様の多大なご協力の下に立派な山車を購入(浅草の宮本卯之助商店に注文)することができました。

町内会ではこれを契機に囃子連を組織し自前で囃子をしたいという願望が高まり、数人の大人と祭り好きの子ども達が集まり、昭和60(1985)年に囃子連が結成されました。

指導には八王子追分町囃子連の市川藤吉さんが手弁当て当たってくださいました。

現在は、立川よいと祭り・諏訪神社例大祭を中心に活動しています。

平成2(1990)年には5周年で長野県諏訪大社で奉納囃子を挙行し、平成7(1995)年には10周年を当時のザ・クロスホテルにて町会や立川おはやし保存会の皆様より盛大に祝って頂きました。また、平成17(2005)年の20周年には、錦みよし会の伊藤勝顧問により、山車の緞帳を新調して頂き、その後、錦みよし会の協力もあり山車の装飾を新調しました。

歴史は短く、技術も未熟なみよし会はやし連ですが、演奏する人・見てくださる人皆様が楽しいと思える囃子を心掛け、今後も努力していきたいと思います。



五月はやし連

発 足 平成16年

流 派 神田流千ヶ瀬

曲 名 仁羽 屋台 四丁目 新ばやし
昇天 宮鎌倉

伝 来 立川市 諏訪はやし連

本 抱 地 富士見町一丁目西部

五月はやし連 プロフィール

五月はやし連が発足する以前、五月会の夏祭りでは、本番直前の1週間で、子供会の子供達にお囃子の練習を行い、披露するという形であった。

当時演奏していた曲は、瑞穂の方から教わったと思われる重松流の仁羽で、現在はテープに音源が残っているのみである。

平成14年頃から町会の重鎮方は、町会に伝わる様々な伝統文化の継承について憂慮し始め、その中の「お囃子」については、当五月はやし連の発起人の小見氏が「諏訪はやし連」に指導を仰ぎ、現在に至る。

平成16年発足した当会は、町会の援助を受け、「伝統文化保存会 五月はやし連」という位置づけで活動を始めた。

主な活動は、老人ホームへの慰問や地元小学校のイベントへの出演及び夏まつりや秋のおはやし大会、お正月の町内門付けなどである。



諏訪はやし連

発足 昭和48年

流派 神田流千ヶ瀬

曲名 升天 四丁目 新囃子 仁羽 屋台
宮鎌倉 ねんねこ

伝来 青梅市千ヶ瀬

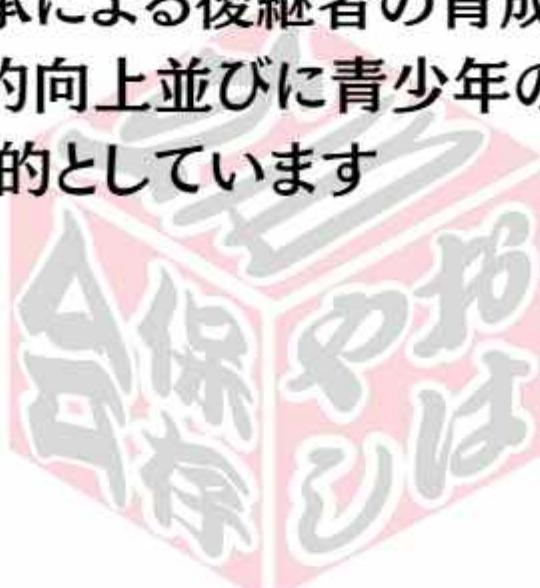
本拠地 柴崎町二丁目

諏訪はやし連 プロフィール

昭和48年に東京都立川市柴崎町二丁目の町会「共生会」の有志16名により、発足しました個人任意団体です。

発足に際し、青梅市の橋本吉光師匠よりご指導を仰ぎ、神田囃子千ヶ瀬流のお囃子を習得し、伝承・活動しています。

また、活動目的として地域伝統であるお囃子の保存、普及、技術向上、伝承による後継者の育成に努めると共に、地域住民の文化的向上並びに青少年の健全なる育成に寄与することを目的としています





殿ヶ谷十二支はやし連

発 足 平成18年

流 派 重松流

曲 名 屋台囃子 仁羽 ねんねこ
四丁目 昇殿

伝 来 瑞穂町 殿ヶ谷囃子連

本 抱 地 西砂町殿ヶ谷地区

殿ヶ谷十二支はやし連 プロフィール

西砂町殿ヶ谷地区は、西砂町5~6丁目と一番町6丁目にかかる地域で、江戸時代の享保年間に「殿ヶ谷新田」として開かれました。平成18年頃、地元の祭礼を盛り上げるためにお囃子をやろうという声があがり、地域の有志7名が集まって会が発足しました。本村にあたる瑞穂町殿ヶ谷の、殿ヶ谷囃子連に師事し、重松流祭囃子を習い受けました。

会の名称の「十二支」は、かつての地元の青年団が砂川の「第十二支部」だったことに由来します。

まだ歴史の浅い囃子連ですが、今後もさらに会員や協力者を増やしながら、技術の向上につとめ、地域の活性化と青少年の健全育成に貢献して参ります。

年間行事

- 1月 元旦門付(新春獅子舞)
- 3月 西砂会館まつり
- 4月 立川緑化まつり、定期総会
- 6月 小若クラブ
- 7月 瑞穂夏祭り、殿ヶ谷納涼会(模擬店出店)
- 8月 諏訪祭り
- 9月 砂川町・阿豆佐味天神社例大祭
- 10月 西砂・阿豆佐味天神社祭り、立川よいと祭り
- 11月 立川おはやし大会、瑞穂町産業まつり
- 12月 忘年会



中里神明囃子連

発足 平成18年

流派 重松流

曲名 屋台囃子 宮昇殿 四方殿 鎌倉
師調目 仁羽 ねんねこ

伝来 武藏村山市 萩赤囃子連

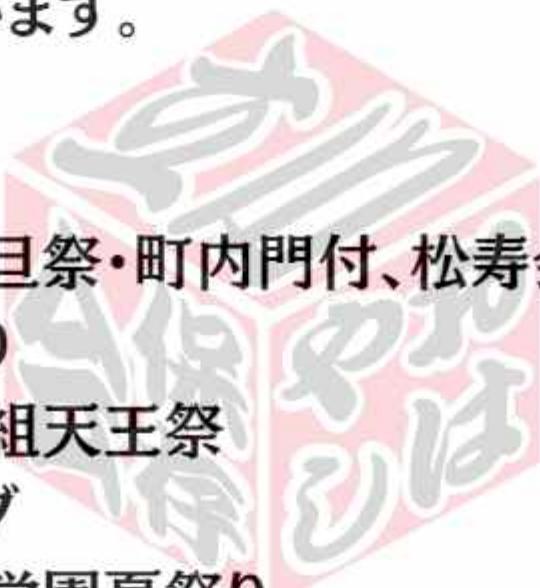
本拠地 西砂町中里地域

中里神明囃子連 プロフィール

中里神明囃子連は平成18年2月に、立川市の最西北に位置する西砂町中里地域で地元有志により発足しました。会員数は約40名で年間を通して各地の行事、祭礼に積極的に出演しています。

平成27年には国分寺市共益より山車を譲り受け、10月の地元祭礼「中里ふるさと祭り」にて子ども神輿と共に町内を巡行しています。

主な出演行事

- 
- 1月 神明社元旦祭・町内門付、松寿会新年会
 - 4月 緑化まつり
 - 5月 砂川一番組天王祭
 - 6月 小若クラブ
 - 7月 武蔵立川学園夏祭り
 - 8月 ふれあい松明祭り、立川諏訪神社例大祭
 - 9月 砂川阿豆佐味天神社秋祭り
 - 10月 中里ふるさと祭り、立川よいと祭り
 - 11月 立川おはやし大会



第35回立川おはやし大会実行委員会